

職業奉仕における

「個人奉仕」の意義

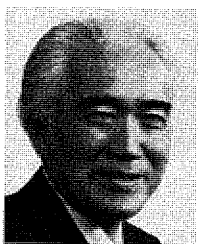
—個人は良心の座であり
創造性と責任感の源泉である—

鈴木憲輔 著



謹んで この小著を
ポール・ハリスの霊に

捧げます



著
者

ポール・ハリスはその名著「This Rotarian Age」の中で「ロータリアンにとって実業こそは私共が社会に奉仕する最高の手段である」と述べております。

数年前手続要覧から「決議二一三四」が削除されたことがあります。しかしそれが日本のロータリアンたちの強い反対によって復活されたことは、皆様ご存じのことと思います。

ではどうして復活させねばならなかったかというところ、この決議にはロータリーの人生哲学における人間としての主体性の根本である「個人奉仕」の立場がはっきりと明文化されている唯一の箇所であったからです。事実個人奉仕こそは綱領の背景をなしているロータリーの思想的基盤であると私は思っております。

この決議の最後には「クラブがひと固まりになって行動するよりも、広く総てのロータリアンの個々

の力を發揮する方がよりロータリーの真の精神にかなっている。そしてクラブにおける社会奉仕（広い意味の）は会員にロータリーの奉仕の訓練を施すための言わば研究室における実験としてのみこれを見るべきである」とあります。

このことは私共がクラブで行う活動はロータリアンの人生を通じて社会に奉仕するための訓練であってロータリー本来の目的はどこまでもロータリアン自身の日常生活の中にあると言うことに他なりません。この人生における奉仕即ち「個人奉仕」を基調とするという考えはロータリーの存続する限り永遠に変わるものであってはならないと私は思っています。

特に職業奉仕は、ロータリアンにとって自らの職業を通してより良き社会を創り、この世に生まれてきた人間としての本然の使命を果たすものであって、それは二度と繰り返すことの出来ない私

其の人生における自己表現の中心をなすものであり、私には考えておりません。

ところが一九八七年にRI理事会によって「職業奉仕における新方針」が発表されました。そこでは、

「従来ロータリアンが自己の職場で自己の職業に個人的に寄与することに重点を置いてきたが、それを（これからの）「職業奉仕ではクラブと会員の両方の責務である」ということに焦点を変えようとするのがこの改正の主眼ですと述べております。

そして

一. クラブの役割として

クラブで職業奉仕を実施することによって、又クラブ自身の行動に職業奉仕を生かす事によって、（会員に）模範となる事例を示すことによ

て、更に会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを（クラブが）開発することによって、（会員が）それを目標として実施するように奨励するというものですとあり、

二. 会員の役割は

ロータリーの原則に沿って自らと自分の職業を律し、併せてクラブが開発したプログラムに応えることです。」と述べてあります。

ところでこれを読んでまず私共が気が付くのはこの新方針に述べられているいわゆる職業奉仕には会員の個人としての主体性やその創造性というものが全く認められていないことです。もっとはっきりと言うならばそこにあるものは会員のクラブに対する単なる服従と模倣と追従しかないのではないかということですが。しかしこのようなクラブ

優位の考え方（集団主義）は今日までのロータリーにはかつてなかったことではないでしょうか。

以下この新方針に対する私の疑問点を述べてみますと、

一. クラブと会員の共同の責務ということは一体可能でしょうか。

これまでの職業奉仕は、ロータリアンにとってはその実生活でした。そしてそれに伴う責任の総てはそれを行うロータリアン自身にありました。新方針で会員との共同の責務と言うのであるならば、当然会員の職業奉仕に対してクラブには共同保証の責務があるはずで、ところが新方針によってこれまでそのような責務が実際に行われたということは全く聞いたことはありません。

二. そもそも職業の本質はその専門性にあります。新方針ではクラブで「職業奉仕を実施したり」

「会員に職業上の模範を示したり」「会員が職業上の手腕を発揮するようなプロジェクトを開発したり」すると述べられております。しかし本来ロータリークラブは会員一人一人が違った専門職からなる集団です。と言うことはある専門職以外の会員は皆その職業に対しては素人であるということですが。従ってこのような素人の会員の実施はもとよりその指導など出来る筈はないのではないのでしょうか。

三. 私共は学校に行き大学に進むと共に専門的な知識を習得し更に長年にわたり自らの専門職における体験によってそのノウハウを会得し初めて実社会のニーズに応えることが出来ます。

しかし現実には日々変化する社会のニーズに正しく応えるためには、その作る製品やサービスにおいてその質が高くなければなりません。即

ち職業における成果である品質は私共の職業奉仕を可能ならしめる条件なのです。このために私共には昼夜を分かたぬ研鑽が必要になります。

又私共が社会に貢献するには価値の創造が不可欠です。この付加価値によって私共は税金や人件費を支払い、設備、材料の購入も可能となり又自らの職業におけるイノベーションやロータリーにおける奉仕などにも応ずることが可能となるのです。つまり私共の職業奉仕は私共の人間としての一切の社会に対する奉仕の源泉であり私共は職業によってこの社会を作りそして人類の存続を可能としているのだと思います。言い換えれば私共の社会はあらゆる職業の人々が集まり互いに専門を分担してそれぞれの責任を果たすことによってこの社会を創り上げているのだと思います。

四・ところが上述の新方針で言われている職業に

みになれば誰にでも明らかのようにそれと結論との間には全く論理的な関連はなく、それらは結論を前提とした単なる言葉の羅列に過ぎないことが解ります。

以上を要約すると新方針におけるいわゆる職業奉仕は私共がポール・ハリス以来ロータリアンが自らの社会に対する責任として行う職業奉仕ではなく他人の職業に対する単に任意の支援だけを捕えて一応職業奉仕と名付けたものであるということが解ります。しかしそれでは他人様の職業上のお手伝いではあっても綱領で言っている(再三申し上げますが)自らの社会的責任として行う本来の職業奉仕では全くないことは明らかです。

七・私はロータリアンの良心に基づく自主的な判断に基づくものであるならばそれが例えばポリオプラスのような集団的な活動に対しても決して反対するものではありません。しかしこの考

は全くこのような専門性もなければ社会創成というような職業自体の本質に対する認識も示されておられません。もしそうだとするとそこに用いられている職業奉仕又は職業という言葉は本来の職業とは全く違った内容のものではないでしょうか。

五・職業とは私共の限りある人生における真剣な営みであり、それは私共自らが生きんがためのものであると共にこの社会作りに参与するものです。そして私共が以上のような職業の本質に対する正しい理解を持ち、その自覚の下に自らの人生を生きる時私共の職業は初めて名実共に職業奉仕の名に値するものになるのだと思います。

六・新方針の前文には経済的不況だとか社会的大混乱などが一見如何にも新方針制定の理由であるかのように述べられてあります。しかしお読

え方を拡大解釈して人間として社会に対して果たすべき責任の中心である職業における私共ロータリアンの主体性をも無視して集団主義的なイデオロギーの行動団体にロータリーを改変しようとするのであるならば、それはもはやロータリーとは言えないと思います。

八・個人における良心を人間における最高の権威として尊重するのではなくいわゆる集団主義的なイデオロギーによる外的な権威によって人間を動かそうとする傾向は、それが仮に地位や名誉による誘導等の手段を用いることによって一時的には成功するかに見えることはあってもそのような団体や国家は必ず形式化いつかは墜落して崩壊することはこれ迄の歴史の上ではっきりと示されているところです。

個人こそは正しく良心の座であり創造性と責任感の源泉です。そしてそれはこの社会の存立

と発展の爲になくはならないものです。そして私共が、「全体（家庭、企業、地域、国家、国際社会等）のための我」として即ち超我の自覚の下に全体の立場に立って行動することこそ綱領に示されているロータリー本来の目的ではないでしょうか。

九・かの「最も（全体に）奉仕する者は最も報いられる」という言葉においてもその主体性は決して集団（全体）ではなく社会的責任を持つことのできる個人にあることは明らかです。もしこのような社会的責任の主体である個人奉仕ということがロータリーにおいて軽視或いは無視された時、私共の職業における使命感はロータリーとは無関係なものとならざるを得ないではないでしょうか。しかしそうだった時ロータリーは果たして真の職業人の集団としてその本来の使命を果たし続けることができるでしょうか。

十・今や世界経済は不安定で特に我が日本は先進

国中でも長期的な不況の中にあると言われております。しかしこの日本を始めとする世界（全体）の活力を維持強化する道はただ変化を機会として捕らえる私共の企業家精神において外にはないはずで、そしてこの企業家精神こそは個人（法人）の創造性と責任感の中からしか生まれてきません。

十一・ポール・ハリスのロータリー創設の背景となつたもの、それは実にシカゴ市民の「Will」の精神でした。「Will」の精神とは個人奉仕によって社会を救わんとする精神であり、それは職業においては正しく企業家精神でした。

十二・新方針が職業と社会との関係について何ら私共の知性が納得できる普遍妥当性のある認識を示す事もなく又、事実上私共ロータリアンが職業人として自らの生涯を真剣に生きる上での

良心の支えともなりえないような外から与えられた集団主義的なイデオロギーによるロータリー指導が今日に至るもなお、継続されているかに見えるのは全く不可解であり残念と言うよりはあります。

最後に「This Rotarian Age」の中にあるポール・ハリスの言葉を述べてさせていただきます。「宣教師は往々にして自分の正しいと信ずる信念を述べるべきか、それとも彼の教団の見解に従うべきかについて岐路に立つ。この時彼の教団のために自分の良心を捨てて妥協の道を選ぶような薄志弱行の徒輩はぜひとも自分の良心に従ふことができる他の宣教師にその席を譲って去るべきである」

私はこのポール・ハリスの見事な真実に対する良心の自由の表明に襟を正さざるを得ません。ロータリーは一九〇五年の創設に引き続きキワ

ニス、ライオンズ創設等のいわゆるチェスタートンのロータリー時代を出現する一方でP・F・ドゥラッカーの言うアメリカ革命に始まる「現代の経営」への変革によって十九世紀的な非人間的な資本主義を完全に止揚して現在の「顧客本位の企業文化」を生み出す原動力となった無数の先輩たちを育ててまいりました。この八十余年に及ぶロータリーの奉仕の理想における偉大なる世界的貢献に対して私共は謙虚にそれを理解し評価すべきではないでしょうか。

社会的責任に目覚めた職業人にとって自らの人生を創造的に生きるということは感激であり生きがいです。このロータリアンの心の喜びを理解しようともせず一方的に集団主義的なイデオロギーを強要せんとする態度は少なくとも民主主義を信条とする社会には当てはまらないものだと思います。ロータリアンである限り恐らくこれまでの特

に職業奉仕における個人奉仕を基本とするロータリーの伝統を無視することが如何に重大な誤りであるかということも現在責任ある立場におられる多くの方々は既に内心では十分に気付いておられる事だと私は信じております。

ロータリーは一二〇万のロータリアンの良心を預かる最も神聖な職業人の集団です。このロータリーの世界的団結を将来に亘り維持発展せしめるための要諦は決してロータリアンを集団主義的なイデオロギーの信奉者にするのではなく、ロータリーがロータリアン一人一人にとって最も力強い自らの「良心の後盾」となることだと思えます。私はかつて決議二二一三四を復活させ社会に対する自己責任の主体である「個人奉仕」というものがロータリーの奉仕の理想の基盤であることの真の意味と自覚をロータリーに蘇らせて下さったわが国の真摯なロータリアンの方々に深く感謝する

ものです。

私共にとって今や必要なことはポール・ハリスとそれに続く数多くの先輩たちのこれまでの歴史の偉業における英知を正しく理解し全員が良心の自由を第一とする民主主義の原点に還って名実共に普遍妥当性のある人間の本質に係わる科学であるロータリーの理想を二十一世紀の創造に向け力強く展開することではないでしょうか。

(一九九五・三)

【一】 参 考】

職業奉仕における新方針

職業奉仕は、長いあいだ、ロータリアンにとつて、非常に意味をとらえがたい奉仕部門でした。その結果、しばしば最もなおざりにされてきた奉仕部門と言えます。(それは真実でしょうか)

しかし、現代では、新技術が絶えず発展し、熟練労働者を人生半ばで冗員にします。また、多くの女性が労働市場に進出しています。景気は減退し、産業スパイがますます横行しています。これら、さまざまな要素がからみ合って職場を大変動させています。

あれやこれやの急速な変化、問題を考えると、ロータリアンの職業奉仕における努力を緊急に練り直さなければならぬことが浮き彫りにされます。さらに、ロータリアンが、職場に高度の道徳的水準を推進できるような職業奉仕の一面を強調

することも明らかに必要です。

従って、R・I・職業奉仕委員会が、この奉仕部門の再定義のため一九八七年に四十年振りに招集されました。新方針が採択され、新委員会機構が創設されました。従来は、ロータリアンが、自己の職場で自己の職業に個人的に寄与することに重点を置いてきましたが、それを「職業奉仕は、クラブと会員両方の責務である」に焦点を変えようとするのが、主眼点です。

職業奉仕に関するR・Iの新しい方針

(改正の内容)

職業奉仕は、ロータリー・クラブとクラブ会員両方の責務です。

クラブの役割は、

クラブで職業奉仕を実施することによって、またクラブ自身の行動に職業奉仕を生かすことによつ

て、(クラブで) 模範となる実例を示すことによつて、さらに、クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを(クラブで) 開発することによって、目標を實踐、奨励することです。

クラブ会員の役割は、

ロータリーの原則に沿って、自らと自分の職業を律し、併せてクラブが開発したプロジェクトに応えることです。

この奉仕部門にクラブ全体で努力することを新たに重視するに当たって、これを強化するために、クラブは、次の職業奉仕小委員会を設置するように奨励されています。

就職相談、職業指導、職業情報、職業活動表彰

アメリカは変化しなければならない。
しかし、変化のための変化であつてはならない。

それはアメリカの理想を守るための変化でなければならない。

一九九三年一月 クリントン米國

大統領就任演説より



職業奉仕における「個人奉仕の意義」

一人は良心の座であり

創造性と責任感の源泉である

一九九五年九月十三日発行

著者 鈴 木 憲 輔

国際ロータリー第二七九〇地区

パストガバナー

職業奉仕カウンセラー

住所 千葉県八千代市八千代台北十一一〇一三

電話 〇四七四(八三)一五五五